

コミュニケーション

No. **98**
2019.10月号

Contents

- P2-3 こんにちは!あかちゃん
移動動物/訃報/飼育動物数
- P4 園長挨拶
アシカのマヤが「竿燈」を披露
- P5 大森山もりもりコンテスト
- P6-7 [特集]
楽しく見せるための施設改修
- P8-9 飼育レポート/動物病院から
- P10-11 イベントレポート/今後のイベント
- P12 飼育日誌/お客さまの声/かたばた通信

こんにちは！あかちゃん



1月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。

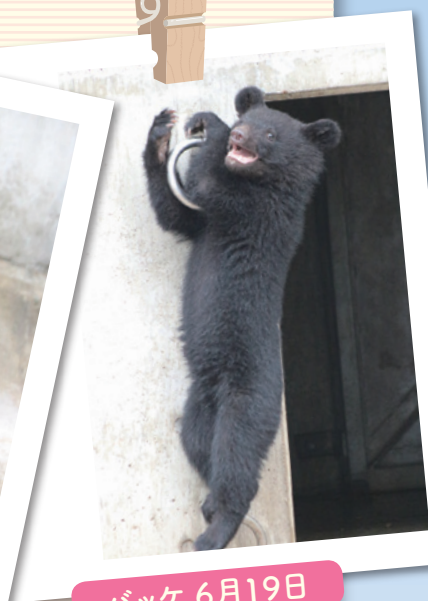
ツキノワグマ

バッケ

2月5日に7年ぶりにツキノワグマの赤ちゃんが生まれました。お母さんのルビーには2頭目、お父さんのコゴミにとっては初めての赤ちゃんです。名前は「バッケ」といいます。秋田の方言でフキノトウのことです。展示場で元気いっぱい動き回っています。



バッケ 4月22日



バッケ 6月19日



マーコール 双子 7月5日

マーコール

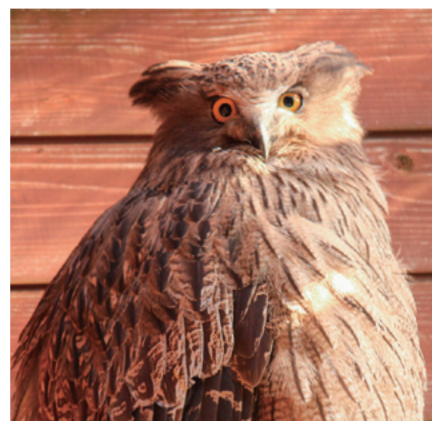
6月25日に双子が生まれました。5年ぶりの繁殖です。しばらくオスしかいませんでしたが、昨年、川崎市夢見ヶ崎動物公園からメスのクルミが来てくれたおかげで誕生した久しぶりの赤ちゃんです(8ページでも紹介)。

このほか、アカカンガルー、ワオキツネザル、プレーリードッグ、ニホンリス、ホンドザル、コモンマーモセット、シロフクロウに赤ちゃんが生まれています。

よろしくね！
仲間入りした動物たち

シマフクロウ

3月29日に釧路市動物園からメスのシマフクロウ「愛花」がやって来ました。現在、北海道以外では大森山動物園のみで展示しています。大森山動物園は、イヌワシをはじめとした猛禽類の飼育および繁殖の実績が評価され、シマフクロウの生息域外保全に取り組むことになりました。まずは愛花をしっかり飼育展示し、いずれは繁殖に取り組みたいと考えています(8ページでも紹介)。



愛花

元気でね！
大森山を後にした動物たち



一颯

ニホンイヌワシ

ニホンイヌワシの「一颯(いぶぎ)」が熊本市動植物園に引っ越しました。九州では初めての飼育です。野生由来であるお母さんの西目の血を引く貴重な系統です。熊本で新しい家族をつくり、早くお父さんになってもらいたいです。

このほか、シロフクロウが他の動物園に旅立ちました。



なお

ライオン

昨年9月に4頭生まれたライオンで唯一のメスの「なお」。生後3カ月頃に足を痛めてしまい、治療のため兄弟たちとは別に飼育していましたが、3月には足の具合もすっかり良くなり、仙台市八木山動物公園に引っ越しました。仙台では同じ年頃のオスとすっかり仲良くなり元気に頑張っているそうです。

訃報 忘れないよ...

コセン (サンショクキムネオオハン) 1月19日死亡

コセンは2004年3月に大森山動物園にやって来ました。その鮮やかな色彩とユニークなエサの食べ方などで、写生大会では多くの子どもたちが絵を描いてくれました。コセンが強気な性格のため、3年ほど前に繁殖を目的に導入したオオハン君とは同居時にケンカをしてしまい、結局夫婦になることはできませんでした。



コセン

コマチ (トナカイ) 6月11日死亡

コマチは2003年に大森山動物園で生まれ、最初はハルコという名前でした。2008年に千葉市動物公園に嫁入りし、コマチという名前になりました。昨年、旦那さんのルイと里帰りし、初めて赤ちゃんを授かりました。6月9日産気づきましたが、なかなか赤ちゃんが出てこなかったため、帝王切開に踏み切りました。赤ちゃんは既に亡くなっており、コマチだけでもと手を尽くしましたが、残念ながら亡くなりました。



コマチ

このほか、ホンドタヌキ、アカカンガルー、ワタボウシタマリン、キョン、スパールバルライチョウ等が亡くなりました。

◎飼育動物数 2019年6月末現在

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎	合計
53種	26種	11種	5種	3種	1種	99種
355点	161点	24点	8点	17点	23点	588点

Greeting

動物園体験から広がるもの 園長 小松 守

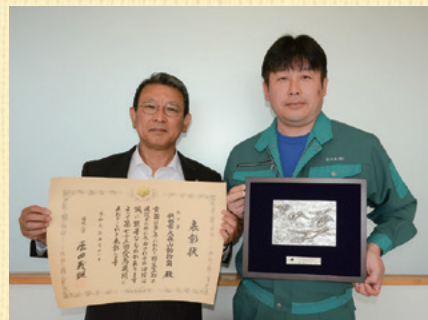
今年のサマースクール、飼育員さんからモルモットの生態を教わった子どもたちが、モルモットのより快適な生活空間づくりに挑戦した。動物と対話し、知ることに関心と愛着が深まり、動物を守ってあげたいという思いが飼育作業につながったのだろう。

動物園の大事な役目の一つは、動物園体験を通じて、動物と動物園理解の場を提供することだ。自然や野生動物保護などへの広がりや、その延長線にある。動物園には動物理解につなげる教育力と人を引きつける力が欠かせない。大森山動物園は近隣にある秋田公立美術大学との大森山アートプロジェクトやネーミングライツ・パートナーである秋田銀行様の支援による魅力づくりが進んでいる。

大森山動物園のテーマ「動物と語らう森」は、間近での動物園体験へと広がり、さらに、動物への関心と愛着の高まりに結びついているように思える。この5月、イヌワシなどの保全活動やその理解普及等が認められ、環境大臣から野生動物保護功労表彰をいただいた。動物と動物園教育への更なる期待の表れだろう。伝える努力に終わりはない。



モルモットの部屋作り
(8月2日サマースクールにて)



環境大臣賞受賞(5月12日授与)

アシカのマヤが「竿燈」を披露

飼育展示担当 千葉 可奈子

秋田の有名な夏祭り「竿燈まつり」は、提灯を下げた竹竿を稲穂に見立て、額や肩、腰などに乗せ、上手にバランスを取り、観客を魅了するお祭りです。

カリフォルニアアシカのマヤは、鼻先に物を乗せてバランスを取ることがとても上手で、鼻先にボールを乗せる様子を見ながら「これは竿燈まつりの額の演技に似ているな」と感じていました。

秋田のお祭りを秋田の動物園のアシカが演技する。「これは、とても面白いかもしれない!」と思い、2018年の春から練習を開始しました。まずは、竿燈を作るところから始め、園内の竹林からちょうど良い竹を切ってきて、高さ1.5mほどの竿燈を組みました。そして、いよいよ竿燈を上げる練習です。バランスをとって竿燈を静止させるのはマヤにとっても難しく、はじめは、1秒竿燈を上げるところからスタートしました。練習を繰り返して少しずつ上げられる時間が延びていき、ついに、夏祭りに合わせて竿燈を上げる事が出来ました。

今年は竿燈を新調して練習を再開。練習を重ね去年の感覚をとりもどしました。お囃子の音色に合わせて竿燈を上げる様子は本物の差し手のようで、大勢のお客様に動物園で竿燈を楽しんでいただきました。来年も練習を積んで、マヤの妙技をみなさんに披露したいと思います。



バランス保持が難しい竿燈

上手に
できました

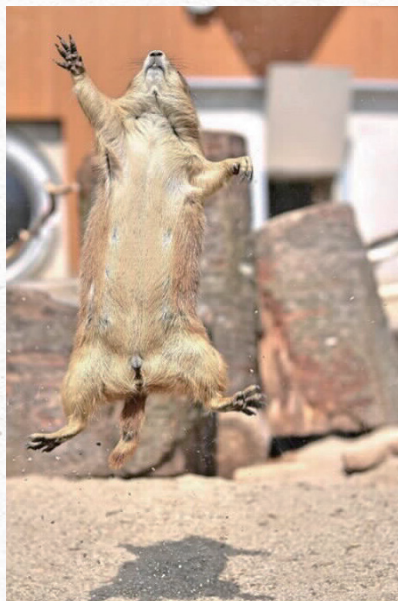
昨年来園したリリーが、だいすけと仲良く寄り添う姿に、ほんと安心します。

大森山 もりもり コンテスト

Instagramに「#大森山もりコン」のハッシュタグをつけて投稿していただいた作品の中から、大森山動物園スタッフの投票により6枚を選出しました。スタッフでもなかなか見かけない、写真に収めるのが難しい動物たちの表情や瞬間を捉えた素敵な作品をご覧ください！



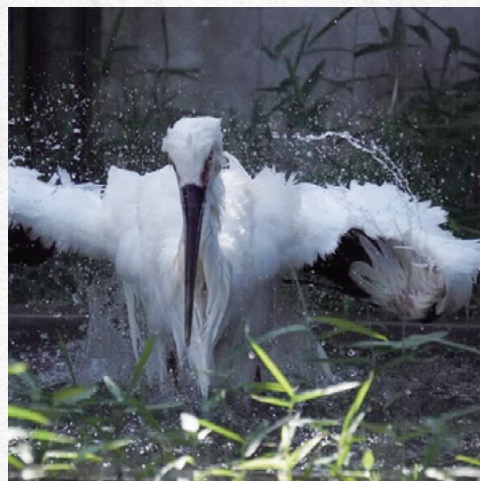
kurotibisanさん



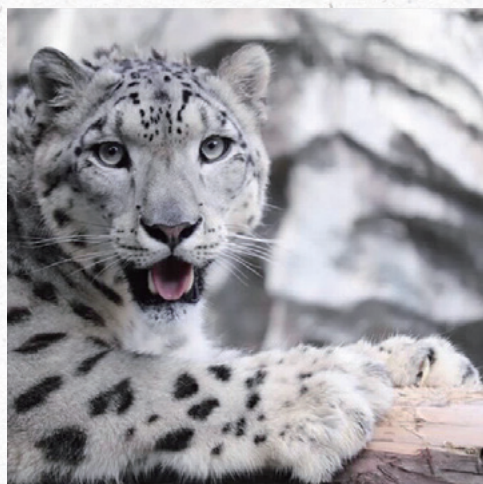
iris_s1864さん

スタッフでも写真を撮ることが難しいコウノトリの水浴びという瞬間をキレイに捉えていて、職員一同感動した1枚でした。

プレーリードッグがジャンプした一瞬を捉えた貴重な1枚です！



kurotibisanさん



marimolovesさん



syoutan_12さん

普段はプニプニ、コロコロかわいらしい姿のプレーリードッグがイケメンに見えます。

普段はクールでイケメンなリヒトが見せた、甘えた表情が印象的です。

日に日に成長する子どもたちですが、まだまだお母さんが大好きで、甘えん坊な表情が可愛らしいです。



@opera_dance

nakacchi_desuさん

「大森山もりもりコンテスト」は2019年の通常開園期間中(2019年12月1日まで)は引き続き開催していますので、ぜひご参加下さい。

次号のコミュニケーションNo.99にも作品を掲載予定です。

特集 楽しく見せるための施設改修

園長補佐 三浦 匡哉



1973年の開園から46年目を迎えた大森山動物園には、開園当時の施設がいくつか残っています。年数を経た施設でも「動物を近くで見たい」、「触ってみたい」、「エサをあげたい」などのお客様の要望に応えるため、飼育員からもさまざまなアイデアを募り改修を行っています。

また、施設の改修費用には、ネーミングライツ・パートナーである、株式会社秋田銀行様からのパートナー料などを活用しています。本号では、これまでの代表的な改修事例について紹介します。

ミーアキャット展示場 (2019年改修)

飼育展示担当 佐々木 祐紀

ミーアキャットは多彩な表情を見せてくれる見ていて飽きない動物ですが、以前のミーアキャット展示場は、堀を挟んで2m先に動物がいる状態で、小さなお子さんからは見えにくく、動物が堀に落ちないように透明な板で囲って防いでいました(写真1)。

「お客様に楽しんでいただくにはどうしたらいいのか」、そんな思いから新たな展示方法を考えました。

一つは、動物を間近で見たい。小さなお子さんでも動物と同じ目線で

あたかも一緒にいるように、触れ合っているかのような展示。そんな考えから展示場の前面にガラスを利用することを考えました。もうひとつは、動物の活動的な姿を見ていただくため、動物を遠くに感じさせていた堀を埋めることで、活動エリアを広げました(写真2)。

さらに思いは膨らみ「ミーアキャットを別の場所に移動させてみよう」と思いました。今の展示場の向かいに第二展示場を全面ガラス張りで作る、イメージとしては出島風の新しい展示スペースです。「さて、新しい展示場にどうやってミーアキャットを移動させるか?」地中に穴を掘って生活する特性を活かし、約1.5mの移動用トンネルを設置しました(写真3)。ミーアキャットがトンネルに馴れるまで少し時間はかかりましたが、今では戸惑うことなくトンネルを行き来する様子をご覧いただけます。

トンネルへの入口からひょっこり顔を覗かせて迎いをキョロキョロする姿は見逃せません。新しく生まれ変わった展示場で、のびのび過ごす愛嬌たっぷりのミーアキャット達に会いに来てください。



写真1:改修前の展示場



写真2:改修後の展示場



トンネル入口



写真3:展示場と出島を繋ぐトンネル

2 カピバラ展示場 (2017年、2018年改修)

のんびりした様子が人気のカピバラの魅力を引き出すため、2017年に「カピバラの湯っこ」を2018年に「エサやり体験スペース」を設置しました。

寒さが苦手なカピバラを、冬でも活発に展示するために作った「カピバラの湯っこ」(湯っこは秋田の方言でお風呂)は、当初、プラスチック製の簡易的なものでしたが、群れで入っても中でゆったり動けるようコンクリートの2m四方のものに拡大し、湯に落ちる姿やじゃれ合う姿が見えるよう前面をアクリル板にしました。



改修前のカピバラの湯っこ

改修後のカピバラの湯っこ

お客さんとは
距離のある
展示場

「カピバラがお風呂に入ってるよ!」という子どもたちの驚く声をよく聞きます。大きな体のカピバラが湯に入り、のんびりしている姿は「癒やし系」の代表で、雪の動物園での雪見風呂は、県外のお客様にも人気がありSNSなどでも反響があります。

また、「エサやり体験スペース」を整備するに当たっては、これまでエサやり体験を行っていた展示場はカピバラとお客様の距離が遠く、エサやり体験は1m以上の長い草がある夏に限定されていたことから、展示場の横の空地を利用することで、お客様との距離や視線が近いエサやりスペースが完成し、夏以外でもエサやり体験ができるようになりました。

金網越しにエサやりができるので、小さなお子様も安心して体験できます。今後はカピバラとのふれあい体験などにも活用していく予定です。

(給湯設備はホームテック株式会社様からの提供)

間近で
エサやりができる
改修スペース



3 レッサーパンダ展示場 (2017年改修)

レッサーパンダの外展示場は、2016年に双子のケンタと小百合が生まれ、少し手狭に感じられるようになりました。そこで、隣のペンギン舎横のスペースを活用し、「離れ」にすることにしました。離れは透明なポリカーボネートで囲われているため、間近で

展示場を
繋ぐ橋



離れ

レッサーパンダが見られるようになりました。外展示場と離れは長さ7m、高さ3mの鉄製の橋で繋ぎ、お客様の頭上の橋をレッサーパンダが歩く様子を見られるようにしました。橋を渡るときは、レッサーパンダのお腹や足の裏が見えるように一部を透明にしています。来園者からは様々な角度からレッサーパンダを見ることができると好評です。

施設の改修には、小規模なものから現在進行中のサル舎の改築など大規模なものまでありますが、いずれもお客様に楽しんで見ていただくために行っています。

これからも動物には快適で、かつ、来園者のみなさんに喜んでいただけるような施設整備を進めていきたいと思ひます。

report. 1

26年ぶり、本州でのシマフクロウの飼育

飼育展示担当 佐々木 祐紀



●愛花(5月16日)

シマフクロウは国内に生息するフクロウの中でも最大級の大きさを誇り、世界的にもトップクラスの大きさです。食性は主に魚類ですが両生類、甲殻類、鳥類、哺乳類など多くの種類をエサとしています。かつては、北海道内に広く分布していたようですが、近年では生息地の減少や環境の悪化により生息数が減り続け、天然記念物にも指定されています。

過去に本州では上野動物園や鹿児島市平川動物公園に1羽ずつが飼育されていましたが、1993年に釧路市動物園に個体が集められペアの形成がなされたようです。その取り組みが実り、少しずつ羽数を増やし北海道内の4つの動物園で新たに飼育やペア形成がなされました。

そして、26年ぶりにシマフクロウの本州での展示が再開され、

大森山動物園でメスの「愛花」を飼育することになりました。暑さを苦手とする動物のため、夏場をより過ごやすく、風通しがよくなるよう飼育部屋を手直しし、室内に冷風を送るよう環境を整えました。

長年、猛禽類の飼育に携わって来ましたが、シマフクロウは初めて飼育する動物種です。はたして環境に馴染んでくれるのか不安なところもありましたが、意外に落ち着いていて、掃除をしてもこちらを見て「ん?」という感じの表情を見せ、驚くこともなく安心しているようです。

堂々とした姿に強さと格好良さを感じられますが、頭には羽角という耳のように見える飾り羽根があり、愛嬌を感じさせる一面もあります。これからより多くの人にシマフクロウの魅力を伝えて行きたいと思います。



●羽角の状態で機嫌がわかります

report. 2

5年ぶりのマーコールの繁殖

飼育展示担当 山本 明子

2019年6月25日にマーコールに双子の赤ちゃんが生まれました。当園でのマーコールの繁殖は5年振りです。5月下旬に胎動を確認し、クルミが妊娠しているのをはっきりと知ることができました。それから出産までの日々は、いつ生まれるのかとハラハラドキドキでした。

出産当日、クルミは朝から壁やフェンスに囲まれ、人目にあまりつかない場所で休息していました。16時半過ぎ、夕方の給餌に向かうと、クルミはその場所でいきみはじめていました。オスにエサを与えながら静かに見守っていると、無事に双子が誕生しました。1頭目を出産した直後からク



ルミは子をなめるなどの世話をしはじめ、1頭目の出産から15分程後に2頭目を産みました。

生まれて1時間程で子どもたちは立ち上がり、不安定な足取りで乳を求めてお母さんの周りをウロウロしはじめました。今では、大人と同じエ

サも食べるようになり、米粒程の大きさのウンチを展示場内で見かけるようになりました(大人のウンチは金時豆程の大きさ)。

双子はオスとメス。大人になると角の大きさもですが、単純に体格も性別により差が出てきます。7頭になったマーコール群のこれからを長い目で観察していただけたらうれしいです。



●クルミと双子(6月26日)

動物とお薬のおはなし

獣医師 山本 達也

移動動物園でのモルモットとのふれあい

動物園の「なかよしタイム」などで皆さんがさわっているモルモットやウサギは、皆さんが安心してさわれるように、獣医師がノミやダニ用の薬を塗り、虫下しの注射や飲み薬を飲ませていることを知っていますか?動物園は他にもたくさんの種類の薬を使っています。と言ってもゾウ用やライオン用、チンパンジー用などの薬は販売していないため、家畜用や犬猫用、ヒト用の薬を使っています。また用量(どのくらい薬をあげるか)は、多くの本や論文、今までの経験などを参考に決めています。そのため、同じ薬であっても、どの動物にどのくらいあげるのか考えることはひと苦労です。

薬のあげ方も色々あります。動物を捕まえて注射をすることも、吹

シロクロウの人工育雛を経験して

飼育展示担当 齊藤 光貴

2019年6月23日、大森山動物園にシロクロウのヒナが生まれました。シロクロウを見たことがない人も、映画「ハリー・ポッターシリーズ」で主人公ハリーがペットとして飼う「ヘドウィグ」を覚えている人も多いのではないのでしょうか。

以前、大森山動物園のシロクロウには、飼育員の腕に乗り、お客様との記念撮影やふれあいなどに活躍していた「ハク」がいましたが、残念ながら2018年7月に亡くなったため、今回生まれたヒナを人工育雛し、ハクの後を継いでもらうことにしました。

シロクロウは、足の指まで羽毛が生えていて、オスはほぼ純白、メスは白い体に黒く細かい縞模様がありますが、産まれたばかりのヒナは、目も開いておらず、頭の毛も薄く、まるで童話「みにくいアヒルの子」のように外見からはシロクロウの



● 保育器の中のヒナ(7月18日)

赤ちゃんとは判別できません。「かわいい」という概念からはほど遠い外見ではありますが、私達飼育員には本当に愛おしく、成長が待ち遠しい毎日です。

生後1カ月以上が経過すると、体重は800グラムを超え、少しずつ羽毛も生えそろう、園内の芝生の上でお散歩ができるようになりました。

最初は小さいサイズのお肉を少量しか食べられなかったのが、成鳥用サイズのお肉を食べられるようになり、生後2カ月には体重も約1.5キロと随分大きくなっています。

私はシロクロウの担当になって人工育雛というものを初めて経験していますが、あんなに小さかった赤ちゃんがたくましく成長していくことに驚きつつも、改めて命の尊さを感じています。



● 園内をお散歩(8月15日)

アムールトラ、カサンドラの初産

飼育展示担当 佐藤 正 奥山 麻裕子



● ヒロシ(左)とカサンドラ

希少動物であるアムールトラの繁殖のため、2016年にロシアから来園したカサンドラとオスのヒロシとの間

に今年2月に初めて子どもが生まれました。肉食獣は、親が子育ての環境に不安がある場合、子食いをしてしまう事もあるため、警戒心が強いカサンドラが、初めて目にする自分の子どもにどんな反応をするのか心配でした。

最終交尾日から数えて102日目の2月28日、夜8時頃から出産が始まり、10時間ほどかけて全部で4頭の子どもが生まれました(カサンドラの部屋には観察用カメラと音声用マイクを設置して、子どもの様子はモニター越しに観察しました)。

元気に鳴く自分の子どもを目の前にしたカサンドラは、小さな子どもたちを踏んでしまわないように気をつけながら母乳を飲ませた

り、身体を舐めてあげたりと、しっかりと子育てをしており、私たちも安心しました。

しかし、数日すると子どもたちは徐々に体力が落ちていき、鳴き声は小さく、動きも鈍くなっていきました。カサンドラも子どもたちを一生懸命に舐めて元気づけようと頑張っていました。トラの初産は、子どもの生存率がかなり低いことは知っていましたが、一頭、また一頭と亡くなっていくのを見るのは本当に辛かったです。

今回亡くなった4頭のみで次に生まれる子どもたちが大きく成長し、元気な親子の姿を皆さんにご覧になってもらえるよう、私達も飼育管理に全力を注いでいきます。



● 出産2日目の様子(3月1日)

き矢を使って注射することもあります。皆さんは注射が好きですか？私は嫌いです。動物たちも注射は嫌いで、捕獲や吹き矢を使うことは動物の体に負担がかかるため、飲み薬を使うことが多いです。しかし、飲み薬はおいしい薬ばかりでなく、マズく苦い薬も多いため飲んでくれない動物たちもいます。そこで飼育員はひと工夫をします。レッサーパンダは錠剤をリンゴに入れ、舌に当たらないようにあげます。また私の担当のポニー・ミニチュアホースもペースト状の薬を食パンに塗って与えています。しかしミニチュアホースのエニフは、察しがよく、こちらが食べてくれるか緊張していると、「パンになにか入れた？」とばかり、寄って来ないことや口か

ら出すこともあります。そこで、私は緊張を隠し、いつもと同じように接しながらパンをちぎってあげると食べてくれました。

皆さんが注射をされる時や薬を飲む時に、動物たちと飼育員や獣医師の攻防を思い出していただければ幸いです。

薬に対して察しのよいエニフ





3/16 通常開園スタート

今シーズンの通常開園がスタート。セレモニーには穂積市長や高木名誉園長も参加し、ネーミングライツ・パートナーの秋田銀行様からは来園者へお菓子のプレゼントをいただきました。当日は秋田公立美術大学の小牟禮尊人教授が制作したガラス作品「イヌワシの鳥海よ、永遠に!」もお披露目されました。



●ガラス作品のお披露目



●動物たちも来園者をお出迎え

4/15 → 4/25 飼育の日イベント

4月19日の飼育の日に合わせ、お客様が動物病院などを見学する裏側探検や飼育員の作業着などに着替える飼育員なりきり体験を開催しました。

また、飼育員によるキーパーズトークでは、アフリカゾウのメスを仙台市八木山動物公園と交換したときの苦労話などを写真で解説しました。



●飼育員なりきり体験

5/19 どうぶつサイエンス

自然科学学習館との共催で「どうぶつサイエンス」を実施しました。今回のテーマは、大陸シリーズ第3弾「アフリカ大陸」。参加者には動物園にいるアフリカ大陸の動物がエサを食べる様子などを実際に見ながら学んでもらい、ワークシートを使って動物の特徴の違いを知ってもらいました。最後に、スライドや頭部の骨格標本を使い、高学年から大人向けに専門的な内容を盛り込んだ解説により理解を深めてもらいました。



●キリンの生態を観察

6/2 春の動物ふれあいフェスティバル

今年で14回目となった春フェス。大好評のどうぶつパレードではポニーやペンギンなど9種の動物たちがお客さまの前を行進しました。

また、チンパンジーなどの展示場の中を開放したイベントでは、来園者が動物の遊具で遊ぶことで、動物たちの視線を体感し楽しんでもらいました。



●どうぶつパレード



●チンパンジーの遊具を体験

6/29 今日はZooっと猛禽類わくわく探検ツアー♪

環境省猛禽類保護センターと共催で、猛禽類にスポットを当てたイベントを開催しました。参加者は猛禽舎、動物病院の内部、エサづくりの様子などを見学し、シロフクロウの子育ての様子をモニターで観察しました。その後、腕に乗せたフクロウやイヌワシを間近に見ながら、山形県の伝統工芸品「お鷹ぼっぼ」の絵付け体験を行いました。



●お鷹ぼっぼの絵付け体験

7/20
土7/21
日

第42回親と子のふれあい写生大会



秋田市長賞
『自由』
秋田市立秋田東中学校 浅水 春香さん



秋田市教育長賞
『いっぱい食べておおきくなって』
秋田市立寺内小学校
高橋 宗太郎さん

好天に恵まれた写生大会は多くの方に参加していただきました。642点の提出作品から、秋田市造形教育研究会の審査により100点が入賞しました。今年も左記の3賞には新屋ガラス工房で制作された「オモリントロフィー」が贈呈されました。

また、20日は秋田公立美術大学によるワークショップ「めざせ!えのぐマスター」を同時開催し、参加者は色の作り方などを楽しく学びました。



秋田市議会議長賞
『ボクの大好きなレッサーパンダ』
ごしょの保育園 小玉 啓斗さん



●ワークショップ
「めざせ!えのぐマスター」



●オモリントロフィー

8/10
土8/12
月8/14
水8/15
木

夜の動物園

7/25
木8/1
木

サマースクール

飼育体験を通じて、子どもたちに生命の尊さや動物の生態を知ってもらおうサマースクール。45回目となった今回は、午前は獣舎の掃除やエサ作りなどの飼育作業、午後からはモルモットのお部屋づくりに挑戦しました。普段は展示場の外から見る動物を間近にした45人の子どもたちは、一生懸命に作業に取り組んでいました。



●ワオキツネザルの飼育体験



●カワウソの
プニプニタイム



●動物園deスイカわり!



●モルモットのお部屋づくり

今後のイベント

12/1
日

さよなら感謝祭

通常開園最後の日曜日の12月1日に、動物の慰霊とお客様への感謝の気持ちを込めて、「さよなら感謝祭」を開催します。

冬季

雪の動物園

2020年1月4日(土)から2月29日(土)までの土日祝日に開園。冬景色となった動物園とその中で過ごす動物たちをご覧ください。

飼育日誌



(平成31年1月1日～7月31日)

1/3	ライオン	トモ♀ 親子の屋外展示練習実施。
1/5	フタコブラクダ	楽楽♂ 死亡(1/4状態急変。座ることも困難になり横臥状態となる)。
1/10	アフリカゾウ	リリー♀ 初めて採血に成功。
1/14	ワタボウシタマリン	コロナ♀ 朝病院にて死亡を確認。
1/15	マーコール	♀ 発情 12年生まれ♂が追尾、乗駕。
1/17	アムールトラ	同居実施、ヒロシ♂のマウント要求に対しカサンドラ♀が拒む行動あり、カサンドラ発情無い様子。
1/19	サンショクキムネオオハシ	コセン♀ 死亡を確認。
1/22	ニホンイヌワシ	第2ペア:西目♀×風斗♂ 交尾行動を確認。
1/30	ユキヒョウ	リヒト♂ 両前肢の第一指の爪切りに初めて成功する。爪切り後に二度目の採血実施。
2/4	ニホンイヌワシ	西目♀ 2卵目産卵、抱卵順調、風斗♂の抱卵も数回確認された。
2/5	ツキノワグマ	繁殖確認、仔1頭の鳴き声確認。
2/10	キリン	リンリン♀ 発情あり、カンタ♂ 強い追尾行動あり。
2/12	ニホンイヌワシ	第1ペア:たつ子♀ 第2卵目産卵を確認。
2/14	アムールトラ	カサンドラ♀ 産箱の入り口を本日より開放。
2/18	アカカンガルー	ハニイ♀ 1頭出産(死産)。
2/20	ニホンイヌワシ	西目♀ 興奮状態、雌雄の関係性悪化(2/25 抱卵放棄)。
2/21	シロフクロウ	赤♀ 狭山市立智光山公園へ搬出。
2/22	シバヤギ	ギン♀ ♂1出産(死産)。
2/23	トナカイ	元気♂ 2/19右角落角、2/23左角落角。
	ニホンイヌワシ	第2ペア:交尾行動確認。
2/27	アフリカゾウ	2頭採血実施。
	シバヤギ	ギン♀ 乳量やや減、後肢のふらつき軽度。
2/28	アムールトラ	カサンドラ♀ 4頭の出産を確認。
3/3	アムールトラ	カサンドラ♀ 朝から授乳確認。日中も産室に居て授乳を続ける。
3/8	アムールトラ	出生個体:2/28 ♀2頭、3/11 ♂1頭、♀1頭死亡を確認。
3/11	キリン	2頭採血実施。カンタ♂ 貧血気味。
3/12	ニホンイヌワシ	有精卵移動作業、たつ子♀の卵を2個回収し八木山動物公園の卵と交換。
3/15	ミーアキャット	2群を病院から改修した新施設展示場へ移動。
3/16	キョン	ソッケン♂ 死亡。
	ニホンイヌワシ	第2ペア:2クラッチ目の1卵目産卵を確認。
3/21	トナカイ	雁来♀ 3/16左角落角、3/21右角落角。
	ニホンイヌワシ	一風♀ 熊本市動植物園へ搬出。
3/25	ライオン	ナオ♀ 八木山動物公園へ搬出。
3/26	シロフクロウ	赤♀、青♀おびひろ動物園へ搬出。
3/29	シマフクロウ	釧路市動物園より愛花♀ 搬入。
4/2	ニホンイヌワシ	八木山動物公園のニホンイヌワシの卵を回収。
	キリン	リンリン♀ 採血実施。カンタ♂ ペニス突出あり。

4/4	アフリカゾウ	リリー♀ 採血実施。
4/6	ブレーリードッグ	チョビ♂×タマリア♀ 性別不明数頭出産。
4/11	ニホンリス	ナツ♀×シュン♂ 性別不明3頭出生 ※推定3/27～29頃生まれ。
4/12	キリン	マウント行動確認、交尾に成功したと判断(初)。
4/17	フタコブラクダ	来々♀ 両前肢の膝関節痛のため夜間も外展示場へ放飼開始。
4/24	ホンドザル	性別不明1頭出生 今年第1頭目。
5/3	ホンドタヌキ	♂1頭死亡。
5/4	ゼニタナゴ保全池	卵が入ったタガイ1個を確認した。
5/5	タンチョウ	お市♀ 産卵あり。
5/7	シロフクロウ	シロ♂×ピンク♀ 1卵目産卵。
5/8	ツキノワグマ	バック♂ 2/5繁殖個体の健康チェック実施(体重4500g)。
	コモンマーモセット	性別不明3頭出生。内、2頭死亡1頭は生存。
5/10	シロフクロウ	ムース♂×チップ♀ 1卵目抱卵。シロ♂×ピンク♀ 2卵目の産卵。
5/14	ブレーリードッグ	赤ちゃん公開(ウエルカム舎室内観覧通路開放)。
5/16	アフリカゾウ	だいすけ♂ ペニス勃起行動を確認。
5/25	トナカイ	春来♂ 左角が根本付近で折れている。 リンリン♀ 右前肢跛行継続のため休養(球節外側に熱感)。
6/1	キリン	
6/2	コツメカワウソ	交尾確認。
	ヨーロッパフラミンゴ	新しいペアの産卵確認。
6/4	ニホンコウノトリ	多摩ペア産卵を確認。
6/6	トナカイ	ルドルフ♂、元気♂ 塩良湯周辺に放牧開始。
6/7	アカカンガルー	パック♂ 死亡。
6/11	トナカイ	コマチ♀ 死亡。
6/13	トナカイ	ルドルフ♂、元気♂ マダニの吸着を確認、駆除薬噴霧。 カサンドラ♀×ヒロシ♂ 完全交尾確認。
6/15	アムールトラ	※6/19同居終了、予定日9月末
	マーコール	性別不明2頭出生。
6/25	フタコブラクダ	来々♀ 4/28から始まった換毛ほぼ完了。
6/30	シロフクロウ	ムース♂×チップ♀ ヒナ1羽人工育雛開始。
	シロフクロウ	シロ♂×ピンク♀ ヒナ1羽死亡。
7/1	スバルバルライチョウ	瀑♀ 死亡。
	カビバラ	ぐり♀ 死亡。
7/4	ホンドザル	性別不明3頭出生。今季9頭目。
7/5	シロフクロウ	ムース♂×チップ♀ ヒナ1羽死亡。
7/9	アカカンガルー	ジュンコ♀ 1頭出産。
7/18	カリフォルニアアシカ	同居、交尾確認。 ※予定日令和2年6月。
7/21	アカカンガルー	トマコ♀ 1頭出産。
7/30	ユキヒョウ	リヒト♂ 採血練習。
	ホンドテン	♂♀採糞実施、京都大学に提供。
	アメリカビーバー	チビタ♀ 東武動物公園へ搬入。
7/31	アフリカタテガミヤマアラシ	ラーメン♀ 東武動物公園へ搬入。チョモ♀ 東武動物公園より搬入。

お客さまの声

- 1/5 年中いろいろなイベントをやってくれるので、親子共々大好きな動物園です。
- 4/24 県外からなので、頻繁には行きませんがここ数年は年に2～3回行っています。今回は思いきって年間パスポートを購入しました。可愛いリヒトくんのデザインに大満足です。
- 4/30 GAOと加茂水のスタンプラリーをめぐるうと来園しました。とても興味深く、来て良かったです。ゾウ舎にて16時頃、餌やり体験場所を清掃中、「八木山動物公園で、花子は元気にがんばっています。リリーをよろしく願います。」と、笑顔で話されたお客様がいました。
- 5/2 子供がいると地図アプリを見ている暇がない。もっと動物の場所が分かる地図や案内をつけてくれると助かる。
- 5/14 コモンマーモセット室内展示場(10頭群展示中)にてお客様から「動物がとても見やすくなりましたね」とお声を頂きました。

か1:ばい:通信



杉迷路

動物園と秋田公立美術大学の共同イベント「大森山アートプロジェクト」で大森山公園彫刻の森に迷路を作りました。自然の杉林を活用したワイルドな迷路で、7月28日のオープニングでは大勢の参加者に楽しんでもらいました。自然豊かな大森山公園には動物園から徒歩10分ほどで展望台やキャンプ場などもあります。動物園に来た際は、ぜひ公園も散策してみてください。(吉田)

発行/秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字湯端154番地 TEL 018-828-5508 FAX 018-828-5509
E-mail ro-inzo@city.akita.lg.jp デザイン・印刷/秋田活版印刷株式会社

●動物取扱業者 秋田市長 穂積 志 ●事業所及び所在地 秋田市大森山動物園 秋田市浜田字湯端154番地
●登録に係る動物取扱業の種別/販売:動-3-41 貸出し:動-3-42 展示:動-3-43
●登録の年月日/2007年6月1日 ●有効期間の末日/2022年7月31日 ●動物取扱責任者/三浦 匡哉、中井 朱、高橋 拓

大森山動物園

検索

<https://www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html>